

ひかりのこ

5月園便り
聖ミカエル幼稚園
2014年4月25日

『人に尽くす』

新入園のお子さんも幼稚園に慣れ、「えーん、えーん」の泣き声も聞かれなくなり楽しそうな、かわいらしい声があちこちで聞こえるようになりました。年中さん、年長さんはクラスの年少さんのお世話や先生のお手伝いをしっかりやっています。先日もぱんださんをのぞいたら、年長さんが力を合わせて、率先してお片付けをしていました。その後みなみ先生が「すずらんさんはこすもすさんと一緒におててをつないでおトイレに行つてね。」とお願ひしたら、優しくそっとこすもすさんの手を取って、ニコニコしながらおトイレへ連れて行っていました。こんな光景がぱんださんだけでなくどのクラスでもいつでも見られます。本当に素敵です。

19日土曜日には在園、卒園のお父さん方が貴重な休日に幼稚園にお越しください、園庭の雪割りやお掃除をしてくださいました。お声をかけると、いつも誰かしらお手伝いをしてくださいました。ありがたいことです。また、先日のクラス懇談会では、父母の会の役員があつという間に決定しました。年少さんもすぐ決まり、気持ちの良いスタートが切れました。

私自身教員をしながらの子育てで、生活するだけで精いっぱい綱渡りの毎日でしたが、結構小学校のクラス役員や息子の剣道会の会計や、地域の子供会の役員を積極的にやっていました。夫も教員ですが、学童保育の代表を3年間やっていました。大人も子供も人のために何かやることはとても気持ちのいいものです。特に親は子どもにかかわることで他の親御さんと力を合わせて働くことはとても楽しいものです。そして子ども達はそんな親の姿をよく見ているものです。私の子ども達も中学校では3人とも生徒会長として働いていました。いつも忙しそうに、でもとっても楽しそうに活動していました。ちゃんとお役に立っていたかどうかは定かではありませんし、どの子もそんなに先頭に立つタイプではなかったのですが、「人のために働く」ことが好きで、やりがいを感じていたのだらうと思います。

それこそ、イエス様は命を捨ててまで、私たち人間のために尽くされました。日本聖公会北海道教区の2014年の聖句は「奉仕する人は、神がお与えになった力に應じて奉仕しなさい。(ペテロの手紙1 4章11節)」です。聖ミカエル幼稚園の子どもたちも、イエス様のように、またお家のお父さん、お母さんのように、それぞれに与えられた力で、それぞれにできることで人に尽くす子どもに育ってほしいと願っています。

園長 渡部良子

月主題：おもしろい

- ・遊びを楽しむ中で、自分の気持ちを伝えようとする
- ・身近な自然・生き物や様々な素材にふれる
- ・聖書の話やさんびかに親しむ

キリスト教保育

人間にとって想像力が大切なのは言うまでもありません。例えば、自分をとりまく世界や社会のしくみをイメージできること、また特に人との関係において、相手の気持ちを察することができるかどうかによって、状況がまったく違うものになります。私も今までに色々な人と接していて、相手ももっと想像力を働かせてくれたらいいのにと感じることもありましたが、かくいう自分も、振り返ってみると想像力が足りないばかりに、失敗したり、人を傷つけたりしたことも多々ありました。恐らく、人は健全に育てば自然に想像力が身につくはずで、その場合の健全さとは、たとえば幼稚園でお友だちとたくさん遊ぶこと、良い絵本と出会うこと、先生やご家庭でのご両親との対話などです。そういう何気ない一つ一つの積み重ねによって必要な想像力は養われています。

4月になって新年度の礼拝が始まりました。初めて教会の礼拝堂でお祈りするお友だちも多くいます。明らかに慣れた教室とは違う不思議な雰囲気があります。元来、教会の建物は人の想像力を刺激します。十字架や祭壇、ろうそくなどはどれも意味があり、たとえ小さなこどもでも、何かしらその背後にある意味を感じ取っているように見えます。そして最も想像力が求められるのが「お祈り」です。こどもたちは胸の前で小さな手を合わせて声に出してお祈りを捧げます。お母さんお父さんのため、お友だちのため、困っている人たちのため。お祈りの相手は目に見えない神様ですが、そこには明らかに人格としての神様の存在を、こどもたちなりに「想像」する作業が伴います。

お祈りとは、自分以外の大きな存在を想像して、対話を試みることです。お祈りの積み重ねによって、こどもたちは想像力を働かせながら、他者への思いやり、感謝の心が身に着いていきます。もしお子さんがご自宅でお祈りを始めたら、ぜひ、静かに聴いてあげてください。

チャプレン 司祭 下澤 昌